

東京外国語大学国際日本研究センター主催
社会言語部門企画講演会

ダニエル・ロング氏
「小笠原における英語と日本語の言語接触」

2009年12月15日(火)13:10~14:40

東京外国語大学留学生日本語教育センター「さくらホール」
(一般公開)

無人島だった小笠原諸島に移り住んだ人は、英語やハワイ語、ポルトガル語、チャモロ語、ドイツ語、カロリン語、マダガスカル語などの言語を話していた。その子孫が、明治時代に日本に帰化し、長年に渡る日本語習得と独自のアイデンティティ保持との葛藤によって、日英両言語の構造が入り混じった「混合言語」が生まれた。

フィールドワークで得られた島民の貴重な体験談を聞きながら島の言語接触の歴史を概説する。

ダニエル・ロング(Daniel Long)氏
首都大学東京 人文科学研究科
日本語教育分野 准教授
日本語習得論、言語接触論、社会言語学
の日本語教育への応用
『小笠原ことばしゃべる辞典』共編



◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
(JR新宿駅から約40分)

◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分、「東京外国語大学前」下車

お問い合わせ

東京外国語大学 国際日本研究センター
研究講義棟(554室)

電話: 042-330-5794

メール: info-icjs@tufs.ac.jp